

# Action Plan-2026

令和8(2026)年度  
事業計画書

学校法人 梅檀学園

はじめに	1
<b>1. 内部質保証《インナーブランディング強化のための内部質保証システムの構築》</b>	
事業計画(No.1-1-1)	2
事業計画(No.1-2-1)	2
<b>2. 教育・研究《学生が有意義で満足感を得る教育の提供及び Society5.0 に対応できる人材の育成》</b>	
事業計画(No.2-1-1)	2
事業計画(No.2-1-2)	2
事業計画(No.2-2-1)	2
事業計画(No.2-2-2)	2
<b>3. 学生の受け入れ《効果的・効率的な戦略による学生募集》</b>	
事業計画(No.3-1-1)	3
事業計画(No.3-1-2)	3
事業計画(No.3-1-3)	3
<b>4. 教員・教員組織《本学の教育の理念・目的の実現に向けた組織の編成と教員の資質向上》</b>	
事業計画(No.4-1-1)	4
事業計画(No.4-2-1)	4
事業計画(No.4-2-2)	4
<b>5. 学生支援《多様な学生に対応する教職協働かつ組織横断的な学生支援体制の構築》</b>	
事業計画(No.5-1-1)	5
事業計画(No.5-1-2)	5
事業計画(No.5-1-3)	5
事業計画(No.5-1-4)	5
事業計画(No.5-2-1)	5
事業計画(No.5-2-2)	5
<b>6. 教育研究等環境《研究支援体制の強化による研究活動の推進／キャンパス整備による教育環境の充実》</b>	
事業計画(No.6-1-1)	6
事業計画(No.6-2-1)	6
事業計画(No.6-2-2)	6
<b>7. 社会連携・社会貢献《社会貢献活動の推進と情報発信の強化／本学の特色・専門性をいかした社会貢献・地域連携事業による Well-being の実現》</b>	
事業計画(No.7-1-1)	6
事業計画(No.7-1-2)	6
事業計画(No.7-1-3)	6
事業計画(No.7-2-1)	7
事業計画(No.7-2-2)	7
事業計画(No.7-2-3)	7
<b>8. 大学運営・財務(大学運営)《教職員の資質向上と運営基盤の強化》</b>	
事業計画(No.8-1-1)	7
事業計画(No.8-2-1)	7
<b>8. 大学運営・財務(財務)《安定的財務基盤の構築》</b>	
事業計画(No.8-3-1)	8
事業計画(No.8-4-1)	8
事業計画(No.8-4-2)	8
<b>9. 広報《大学ブランド力の向上》</b>	
事業計画(No.9-1-1)	8
事業計画(No.9-1-2)	8
事業計画(No.9-2-1)	8

# はじめに

## ホップ・ステップからジャンプへ

学校法人梅檀学園東北福祉大学は、1875(明治8)年宮城県曹洞宗専門学支校として創立し、2025(令和7)年に学園創立150周年を迎えました。本学の中期事業計画は、2020年度より第1期中期事業計画(2020-2024)として策定し、第1期中期事業計画の2020年度から2024年度の5年間は、150周年に向けての「ホップ」「ステップ」の時期でもありました。そして今般の第2期中期事業計画(2025-2029)は、第1期中期事業計画を検証しつつ、残された課題への対応や将来の本学の方向性を明記した、150周年を起点とする「ジャンプ」の時期に位置するものであり、本学にとって極めて重要な5年間といえます。

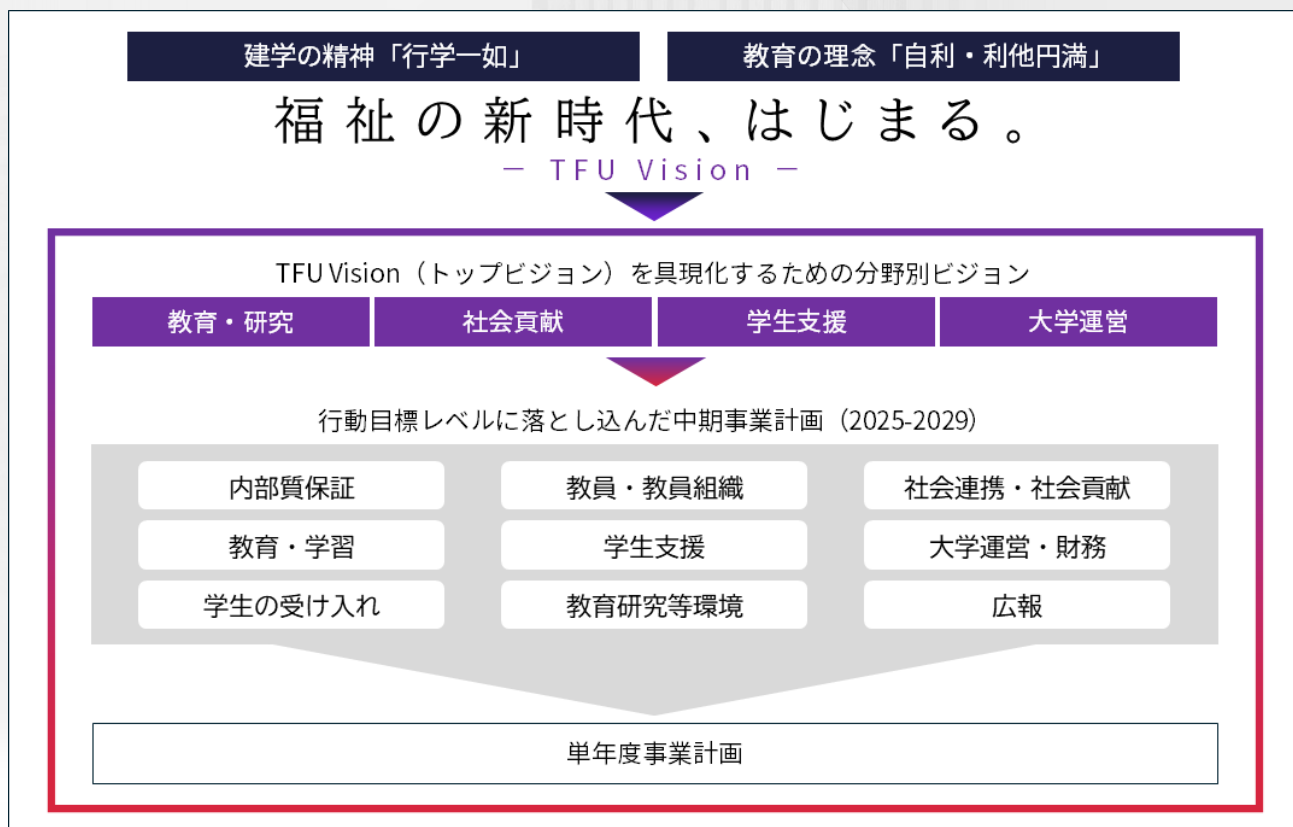
## 不易流行

これまで培ってきた歴史や伝統と革新が融合する、新たな大学の姿を示すものとしてTFU Vision「福祉の新時代、はじまる。」を策定しました。本学は、建学の精神「行学一如」、教育理念「自利・利他円満」を基底に据え、福祉、教育、医療、行政、産業など様々な分野の連携により、一人ひとりの多様な幸せとともに、社会全体の幸せを実現するウェルビーイング(Well-being)の理念の実現を目指す人材を養成しています。従来の「福祉」がウェルフェア(Welfare)の理解からウェルビーイングへとパラダイムが変換しつつある中で、本学はその先頭に立ち「新たな福祉」を切り開いていく覚悟です。TFU Vision「福祉の新時代、はじまる。」には、このような本学の思いが盛り込まれています。

少子化が急進するなか、とりわけ地方の私立大学の在り方が問われている昨今、建学の精神、教育の理念など普遍的な考え方をしっかりと守る一方で、急変する環境に柔軟に対応する、すなわち「不易流行」の視点をもって、これまでも、これからも社会に有用な人材を輩出することに注力していきます。

## TFU Vision と中期事業計画

第2期中期事業計画は、TFU Vision(トップビジョン)を具現化するため、「教育・研究」「社会貢献」「学生支援」「大学運営」の4つの分野における13のビジョンを設定し、その各ビジョンを行動目標レベルに落とし込み、19の計画を策定しました。計画ごとに各部門が内部質保証システムに則りPDCAサイクルを回し、各年度の事業計画の確実な実行を目指します。



## 1. 内部質保証

### 《インナーブランディング強化のための内部質保証システムの構築》

#### 中期事業計画 No.1-1

組織のパフォーマンスを向上させるために内部質保証システムを深化させる。

##### No.1-1-1

教学マネジメント体制や外部評価・学生等の意見を踏まえた内部質保証システムの素案を作成する。

#### 中期事業計画 No.1-2

第3期認証評価における是正勧告・改善課題の改善を図る。

##### No.1-2-1

是正勧告・改善課題となっている事項に対する取り組みの進捗を確認し、次年度への取り組みに反映する。

## 2. 教育・研究

### 《学生が有意義で満足感を得る教育の提供及び Society5.0 に対応できる人材の育成》

#### 中期事業計画 No.2-1

学士課程において、学位プログラムを中心とした学修者主体の履修システムを構築する。

##### No.2-1-1

各学位プログラムが、それぞれのディプロマポリシーを満たす学生を育成できているかどうかを評価する基準を作成する。

##### No.2-1-2

高等教育推進センターで評価した結果をもとに、各学位プログラムで身につける「力」について、小グループごとに説明し、教職員の理解を深める。

#### 中期事業計画 No.2-2

学生ひとり一人に向き合い、「個」に応じた成長と自立を促す教育を行う。

##### No.2-2-1

前年度と同様であるが、特に応用福祉学連係教育課程へ移行した学生に着目して分析を行う。

##### No.2-2-2

高等教育推進センターで分析した学生調査の結果について、類型化(プロファイリング)を理解する。

### 3. 学生の受け入れ

#### 《効果的・効率的な戦略による学生募集》

##### 中期事業計画 No.3-1

学部・大学院・通信教育部学生の入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍学生数比率を適切に管理する。

##### No.3-1-1

- (1) 前年度の結果・分析を行い、志願者確保に向けた効果的な戦略による学生募集を実施する。
  - ・ 本学第一志望の志願者確保を目的とし、オープンキャンパスの内容を充実させる。
  - ・ 年内入試、一般入試の併願率の上昇を目指し、校内ガイダンス、進学相談会に効果的に参加する。
  - ・ 宮城県を中心とした東北六県からの安定した志願者確保のため、年内入試利用の高い多様校(実績校)及び一般選抜利用の高い進学校(戦略校)の定義付けの検証及び設定を行う。
  - ・ ブランド力の向上、幅広い層の訴求を図るため、対面、各種広報ツールを駆使し、広報部との連携も積極的に行う。
  - ・ 協定校との高大連携事業内容の工夫・改善を行う。
  - ・ リエゾン教育プログラムの更なる充実化を図る。
- (2) 学科の特徴を生かした選抜方法(評価方法、試験期日等)及び区分の適切な募集定員を設定する。

##### No.3-1-2

- (1) 前年度実施した「早期履修制度」のパイロット的な取り組みを継続しつつ、単位修得をめざした本格運用を開始する。
- (2) 学外説明会の拡充を図る。具体的には、オンラインでの「個別相談」を、改善を図りながら継続し、「模擬授業」実施の検討を継続する。
- (3) ・ 在籍者の退学防止対策として、専攻会議で大学院生の情報共有を行う。
  - ・ 2027年度の運用開始に向け、社会福祉学専攻、教育学専攻のカリキュラム見直しについて検討を継続する。
  - ・ 総合福祉学研究科の定員、専攻の見直しについて、研究科内での検討を継続する。

##### No.3-1-3

- (1) 入学希望者向けホームページの大幅改修、キャリア支援科目を実施する。
- (2) 研究科においては通信制大学院の特徴を活かし、社会人の学修プログラムの提供について、その需要状況を把握したうえで、必要な改善を行う。

## 4. 教員・教員組織

### 《本学の教育の理念・目的の実現に向けた組織の編成と教員の資質向上》

#### 中期事業計画 No.4-1

中長期的な人員配置管理計画を策定し、運用を開始する。

##### No.4-1-1

高等教育推進センター、学内理事会等の審議を経て中長期人員配置管理計画を策定する。

#### 中期事業計画 No.4-2

FD プログラムの推進と本学独自の「教員個人 自己点検・評価シート」を活用し、組織的に教員の資質向上を図る。

##### No.4-2-1

出願者データや学生動向データ等の活用を促すために、学科毎に開催する FD において、高等教育推進センターから報告する。

##### No.4-2-2

- (1)高等教育推進センターがヒアリング結果に基づき、「教員個人の自己点検・評価シート」の改正案を作成し機関承認を得る。
- (2)ヒアリング結果に基づく「教員個人の自己点検・評価シート」自己点検・評価体制図の検証と改正案を作成し、機関決定を得る。

## 5. 学生支援

## 《多様な学生に対応する教職協働かつ組織横断的な学生支援体制の構築》

## 中期事業計画 No.5-1

教職協働かつ組織横断的な学生支援体制の整備と業務効率化により、学生支援を強化する。

## No.5-1-1

(1) DX 化による学生支援のワンストップサービスを視野に入れた組織横断的な支援体制の理想像を設定する。

## No.5-1-2

(2) 自部署で実現可能な学生支援業務のデジタル化や業務改善を図る。

## No.5-1-3

(3) 既に学生に公表されている情報を整理し、学生によりわかりやすい形で公表する。

## No.5-1-4

(1) DX 化による学生支援のワンストップサービスを視野に入れた組織横断的な支援体制の理想像を設定する。

(2) 自部署で実現可能な学生支援業務のデジタル化や業務改善を図る。

(3) 実習支援センターとしての体制を整備する。

## 中期事業計画 No.5-2

学生の正課外活動(学生団体等)を活性化させ、その活動実績を積極的に外部に発信する。

## No.5-2-1

(1) 学生団体加入率向上に向けた各種方策の具体的な取り組み方針の検討に取り組む。

- ・サークル紹介
- ・新入生歓迎活動
- ・既存団体活動の充実
- ・新規団体設立

(2) 2025 年度実績に基づき、学生団体等の正課外活動情報の積極的な配信指導および指導体制(案)を策定し、同案に基づいた現状分析と必要な修正に取り組む。

## No.5-2-2

(1) 学生団体へのホームページ更新説明会の開催。

(2) 学生団体のホームページ更新作業に関するヘルプデスク業務の実施。

(3) 学生団体が使用するホームページ更新方法マニュアルの充実。

(4) 学生団体公式 SNS 運用説明会の開催。

## 6. 教育研究等環境

### 《研究支援体制の強化による研究活動の推進／キャンパス整備による教育環境の充実》

#### 中期事業計画 No.6-1

科学研究費助成事業を含む競争的資金の申請者増加を目指し、研究活動の促進を図る為の体制を構築する。

##### No.6-1-1

- (1)競争的資金申請者の伸長状況及び未申請者の要因を検証
- (2)若手研究者の育成及び研究環境改善の導入に向けた学内承認
- (3)全学的な研究倫理関連及び研究不正防止に向けた体制整備

#### 中期事業計画 No.6-2

教育環境の質的向上を目指し、全学的な施設整備計画を進める。

##### No.6-2-1

- (1)施設点検結果を踏まえた修繕計画を実施する。
- (2)新キャンパス整備構想に基づき、施設整備計画を適宜見直すとともに、建設工事にともなう利用者への影響に十分配慮し、適切な環境整備を実施する。

##### No.6-2-2

- (1)狭隘化対策のための除却計画に基づき除却作業を進める。
- (2)新キャンパス整備構想を踏まえ、2027年度以降の新除却計画を作成する。
- (3)新キャンパス整備構想のプランを把握し、図書館として運用面及びハード面について意見を集約、検討する。

## 7. 社会連携・社会貢献 《社会貢献活動の推進と情報発信の強化／本学の特色・専門性をいかした社会貢献・地域連携事業による Well-being の実現》

#### 中期事業計画 No.7-1

ボランティア活動等の取り組みの成果を始めとした大学の資源を社会に還元し、情報発信を行う。

##### No.7-1-1

- (1)(2)各種活動や事業において、継続している活動は維持しつつ内容の精査、改変改訂した事業を含めた活動や事業を実働に移す。
- (3)広報部と連携し、情報発信方法を基に情報発信の体制案を作成する。

##### No.7-1-2

通信教育課程の特色をいかし、インターネットを活用した公開講座を開設する。また、アンケート等により需要状況を把握したうえで、次年度の公開講座を設定する。

##### No.7-1-3

- (1)ミニモリの来場者数を増やすため、仙台市・河北新報社との連携や公開講座参加者への周知等を強化する。
- (2)東口キャンパスを「学びの場」および「地域に広く開放する場」として活用するため、まずは学内に向けてその利活用法を周知していく。

## 中期事業計画 No.7-2

学科・研究科や各教員が取り組んだ教育研究成果を社会に還元できるような体制を構築し、研究成果等を積極的に外部に発信する。

## No.7-2-1

- (1)即時オープンアクセス化(2026年度運用開始)の本格運用
- (2)研究成果等の情報公開に向けた体制構築と一部運用開始を目指す。

## No.7-2-2

- (1)研究成果等の情報公開に向けた仕組みを構築し、本学公式ホームページ上で研究成果等の情報公開開始
- (2)GakuNin RDM の本格運用開始。データ公開基盤 JAIRO Cloud にて研究者の即時オープンアクセス開始

## No.7-2-3

JAIRO Cloud での即時オープンアクセスを開始する。

## 8. 大学運営・財務（大学運営）

## 《職員の資質向上と運営基盤の強化》

## 中期事業計画 No.8-1

教育研究活動等を担う職員の育成を推進する。

## No.8-1-1

- (1)「求める職員像」を踏まえて他大学等の研修内容等を参考に SD プログラムの見直し、再構築を行う。
- (2)「学内交流制度」について、前年度の課題を踏まえ翌年度の本運用に向けた試行を行う。

## 中期事業計画 No.8-2

寄附行為及びガバナンス・コードを踏まえ、監事・会計監査人の独立性を高めながら、相互に連携して監事監査を実施する。

## No.8-2-1

- (1)監事業務を支援するための情報提供や研修機会の提供等を行う。
- (2)監事監査に資するガバナンス・コードの遵守(実施)状況の点検

## 8. 大学運営・財務（財務）

### 《安定的財務基盤の構築》

#### 中期事業計画 No.8-3

中期の財務計画を適切に策定する。

**No.8-3-1** 中期資金計画に基づいた資金計画の遂行、変更等への対応

#### 中期事業計画 No.8-4

収入の多様化と、支出の最適化を図る。

**No.8-4-1** 目標に合致する予算の策定

**No.8-4-2** 収入の多様化を実現するための体制構築

## 9. 広報

### 《大学ブランド力の向上》

#### 中期事業計画 No.9-1

リブランディング戦略を進め、大学のアウトターブランド力を向上させる。

**No.9-1-1** (1)ホームページのフルリニューアルを行う。  
(2)中期事業計画の目標値の達成状況を元にした SNS 投稿内容の改善を行う。  
(3)既存のマスメディア以外(WEB メディア等)への営業実施。

**No.9-1-2** (1)・2026 年度展覧会事業の実施  
・前年度実施したアンケートを活用し、広報に反映させる。  
(2)当館ホームページや SNS 等で収蔵品の公開。2026 年度:所蔵コレクション[アンデス資料編]  
(3)高校生向けの施設開放事業(芸術鑑賞等)を進めるための実施体制づくりを広報部と連携し、行う。  
(4) Instagram の投稿内容の改善と反映。

#### 中期事業計画 No.9-2

学内・同窓生への広報活動力を向上させる。

**No.9-2-1** (1)学内への情報発信体制の再構築を行う。  
(2)同窓生へ大学からの情報発信について調査する。  
(3)同窓生と繋がる仕組みの導入検討。



## 学校法人 梅檀学園

---

(お問い合わせ先) 東北福祉大学 総務部企画課 022-717-3329

※これまでの事業計画・報告書等は大学ホームページからもご覧いただけます。

トップ> 大学について> 事業計画／財務・事業報告

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/finance.html>

---